

# 専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺

題字 大橋曾水

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL.0866-82-0488

URL:<https://www.senkyoji.com/>

E-Mail:[senkyoji@senkyoji.com](mailto:senkyoji@senkyoji.com)



菊：榑崎 裕志・恭子

## 信の一念

住職 釋龍生

今年の三月に、日本の音楽の巨匠、坂本龍一氏がお浄土へ還られた。満で七十一歳。

坂本氏の音楽と私の出会いは、小学校五年生の頃だった。当時、私はスポーツ少年団でソフトボールをしており、毎週日曜日の午前中が練習日だった。あの練習日の夏の炎天下、小学校の校庭のトラックを、何周もトレーニングとして走った。コーチもただ走らせるのはかわいそうと、自身が当時好きだったのだろう、ある音楽を繰り返し流し続けた。それが

坂本氏の参加する音楽ユニット、YMOの「ライディーン」という曲である。この曲は、テンポがよく、ランニングには向いていると思う。ただ炎天下でも、当時は練習途中の水分補給はご法度、おまけにこの一曲の繰り返しだったので、小学五年生の私には、地獄から流れてくる音楽にしか聞こえない、というのが正直な気持ちだった。そんな夏の思い出もあり、十代の頃は、坂本氏やYMOの曲をあまり聴かなかった。私が坂本氏やYMOの曲にはまったのは、二十代の半ばである。あらためてその音楽的才能に心揺さぶられたのは、映画「戦場のメリークリスマス」のテーマソング、「メリークリスマスミスターローレンス」。坂本氏のベストアルバムを買って、あらためてこの曲を聴いたのは真冬の二月、今にも舞い込んできそうなほどの粉雪が、まるで曲の旋律に合わせるかのように、窓の外で乱舞していたのを記憶している。今でも坂本氏やYMOのアルバムは、いつも車に積んでいて、ドライブのお供になっている。

そんな坂本氏のインディビジュアルが、ある雑誌に掲載されていた。その中に、

音楽は目に見えない。だから隣のビルがなくなったといった、風景の変化のようには認識されない。その代わりいつの間にか、人の心のあり方も変えている、そんな魔法のような媒体なのである。

と述べていた。

私は、坂本氏のインタビュウの言葉に、浄土真宗の教えそのものを重ね合わせる。よくお寺での研修や法話で、「私は信心を得ていますか」また「信心を得ることが出来ますか」ということを問われるご門徒がおられる、という話を聞く。親鸞聖人は、人間のことや自らのこと、またこの世の中を「歎異抄」の中で、

煩惱具足の凡夫、火宅无

常の世界はよろづのこと、みなもてそらごとたわごと、まことあることなきに、たゞ念佛のみぞまことにておはします

と表現される。これは、

わたしどもはあらゆる

煩惱をそなえた凡夫である

り、この世は燃えさかる

家のようにたちまち移り

変わる世界であって、す

べてはむなくいつわり

で、真実といえるものは

何一つない。その中にある

て、ただ念仏だけが真実

なのである。という意味

である。つまり「信心を

得ているのか」とか、

「信心を得ることができ

るか」ということは、私

たち煩惱具足の凡夫が、

自覚して分かるものでは

なく、阿弥陀さまにしか

分らない。その阿弥陀さまが、私たち生きとし生けるものを救うと誓われて、完成された真実のはたらき、南無阿弥陀仏というお念仏を、常に届けてくださっている。その南無阿弥陀仏に込められた真のお心を、なんま

んだぶつと、二心なく、

素直にいただくのが浄土

真宗である。阿弥陀さま

が五劫の間、思惟された

私たちへの渾身の願い

(ご本願)に触れば、

隣のビルがなくなったと

いった、風景の変化のよ

うには認識されず、目には

は見えないけれども、い

つのまにか人の心のあり

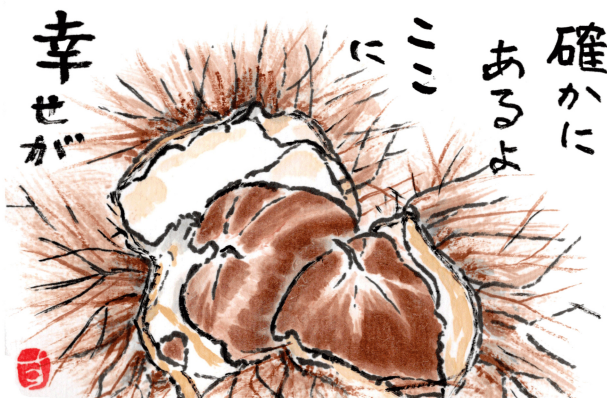
方や振る舞いも、好まし

く変わっている。まさに

このことが「信心いただ

く」ということであろう。

「親鸞聖人にとって阿弥陀仏とは、名のりを聞いてお会いする方で、見る対象ではなかったということです。」恩師の言葉に心揺さぶられる。



挿絵 内村 壽美子

# 清掃奉仕に感謝

坊守 佐々木ひろみ

先日の報恩講前清掃奉仕には、たくさんの方に来ていただき、境内や本堂の仏具が大変きれいになりました。ありがとうございました。ございました。

以前から、寺報に「境内の池の掃除の様子」の写真を載せてきました。毎年二回、総代さんが集まってくださり、池の清掃をしてくださいました。池の水を全部抜いて、底にたまった藻や枯葉を取り除き、デッキブラシやほうきで汚れを落とす作業をしてくださいました。重労働なのですが、とても手際よく、きれいにしてくださっています。

それに加えて、昨年から墓地の清掃も月一回のペースでしてくださっています。墓地の通路だけでも意外と広く、夏場は特に草がよく生えます。

草枯らしを撒けばいいと思われるかもしれませんが、実は、境内の臥龍松の根が墓地のところまで伸びているため、そういうわけにはいかないのです。ですから、暑い季節になると、ひときわ大変なのですが、朝早くから集合して、黙々と草を刈ったり、抜いたりして、参道を整えてくださっています。

総代さん方には、お寺の運営に関わる相談、永代経法要や報恩講の準備や片付けなどでも日頃か

からお世話になっていきます。これからもよろしく願います。

## 菊作り菊見るときはただの人

門徒 植崎裕志

「菊作りは一年間」と言われるようにきれいな花を咲かせるためには、一年中いろんな準備・作業がある。表向きは妻と私の共同作業の菊作りだが、その中身はというと???

私が関わる菊作りの作業は、菊がきれいな花を咲かせている十月頃から次の年の準備が始まる。腐葉土を作るための落ち葉集めだ。九十リットルの袋二十〜二十五個くらいが必要。どんな葉っぱでもというわけではなく、水はけがよく保水力

のある葉を求めてあちこちに行く。桜の葉を集める時などは苦勞する。場

所により木 により散る 時期が違い、

風が強かったりするとすぐに飛び散ってしまう。雨の後は葉っぱが濡れていて重くていやだ。集めるのに良い条件の日は二〜三日だけ。できるだけ家から近い所だと思うがなかなか思うようには集めることができないので、七キロメートルほど離れている地藏岩のあるヤッホー公園まで行くこともある。桜以外の葉は主には矢掛運動公園で集める。ここは私のウォーキングコースなので毎日落ち葉の様子を見ることができ

る。ちょうどよい頃になったら運動公園を管理している方に、「これから二週間ほどは落ち葉を片付けなくてください。私が片付けるので」とお願いして集めている。

こうして集めた落ち葉と油粕や鶏糞などにボカシを混ぜて、深さ一メートル以上直径二メートル余りの穴に入れたつぶり水をかけ、次の年の五月頃までに腐葉土を作る。その間に三々四回混ぜ返すのだがこれは私にとっ

その間、妻は花が終わっ

た菊の株に肥しをやるなどして大切に管理し、四月半ば頃からは芽を出

てきた菊のさし芽の準備を始める。芽の伸び具合や天候を見ながら。睡眠

もあまり強くない妻がこの時だけは朝五時頃にはサツと目覚めて作業をしている。どのようにしているか私は知らない。準備していた鹿沼土に種類ごとにさし芽をし、雨や太陽光の調節をしながら育てている。それだけ手をかけて育ててもうまく芽が出なかったり、枯れてしまったりすることも

私は何も言わないし言え

ない。何も知らないし何も分からないから。

元気に育った芽を一本ずつポットに植えてしばらく育て、それを五号鉢に植え替えて育てるのだが、この間にも枯れてしま

ものが育っているのだが、なくなってしまう種類もあるようだ。妻はそれを非常に残念がるが、私は「同じ色があるのだから」と気にならない。色が同じなら種類によつての違いなど分からないのだから。この時期の妻は、菊のことしか目に入らず、頭にならないのかと思うほどだ。その情熱と観察力と気配りには感服するばかり。

でもこの頃から、妻と

の間で衝突が起こることが増えてくる。一番よく

起こるのは妻との意見・考え方の違いからくる衝突。妻は菊作りの会に入っていたり、本を読んだり、専門店からのチラシを見たりして知識は豊富。そ

うした情報から「こうしなければきれいな花は咲かない」と考え、肥しや消毒も決められた通りにしようとする。菊の種類についても私の知識は、色は「赤色・黄色・白色」花の形も「厚物・管・嵯峨菊」程度。妻は色や形を菊の名前で判別する。「右近・越山・強大・大臣・綾姫・花百合・福德・大宇宙・北斗の星・・・」

まだまだある。私には違いが分からないが、妻に

はそれぞれの違いがわかるようだ。これだけ認識が違うのだから、妻の言うようにしていれば衝突は起こらないのだが、なぜかしばしば衝突する。それは時間がかかる作業や、妻には少し無理な力仕事は私がするしかないからだ。また半年以上かけて腐葉土を作ったという自負もあるのかな？鉢に植えた苗が成長していくのに合わせて支柱に結わえたり、消毒したり輪台をつけたりするのは私の仕事。私は何事も効率よく片付けたいので自己流で作業する。そうすると意見の相違が出てくる。特に私が良かれと思って作業したすぐ後に、「

に」と指摘されると「そんなに言うのならもう一切菊については何もしない！」と言うことが一年のうちに一〜二回ある。妻は腰に持病があり、年に数回腰が痛くなり、整体に通ったりお灸をしたりして、自分なりに気を付けてはいるが、菊のことなると重い鉢を運んだり、何時間も同じ姿勢で作業をしてあちこちの痛みを訴える。そうした妻のことを分かっているから「もう何もしない」というような言葉が出るのである。

こうしたことを繰り返しながら毎年菊を作っているのだから不思議。ただその不思議に対する答えは自分の中でははっきりしている。それは菊を通している。それは菊を一年間手をかけて咲かせた菊、切り花は近所の人だけでなく家族が職場に持って行ったり、孫が学校にも持って行ったりする。矢掛の商店街のお店にも配り、矢掛に来てくる観光客に差し上げることもある。差し上げる人は延べ百人くらいかな？

それ以外にも鉢植えの菊はいろんな人のお世話になっている。咲いた花は雨にあたるとすぐに傷むので雨のあたらない場所に置いてやりたい。近所の子の軒下に置かせてもらい「水だけやってください」とお願いしたり、商店街で親しくお付き合いしている店にも置かせてもらったりしている。それも園にも置かせてもらう。それ以外にも矢掛の観光案内所や菩提寺である専教寺、そしてかかりつけ医など無理を頼めるところあちこちにお願している。置かせてもらった菊は、時々様子を見に行き、傷んできたらきれいに咲いている鉢と交換する。花が咲いている鉢は運ぶのが大変。運ぶ途中風に当たると花が痛むので、風が当たらないで菊の鉢を乗せることができる車にしている。一番遠くは三十キロメートルほど離れた病院まで運んでいる。息子の嫁が勤めていて、たまたま小

さい鉢を持って行ったら、病院の方が非常に喜んで下さり、「来年もお願い致します」と言われ、嬉しくなっても毎年置かせてもらっている。お願いしている家や店、そして施設は三十力所を越え、鉢の数は百鉢近く。こうした菊を通しての付き合いのおかげで人の輪が広がる。矢掛に来た観光客で菊に関心・興味がある方がお店に置いてある菊を見て、「この菊がほしい」と話されたりするとお店の人がわざわざ連絡してくださり花をもらいに来られたり、「この花の株がほしい」と言われ株分けをする頃に取に来られたりする。こうした方との語らひは大いに盛り上がる。



特に妻は好きな花の話なので、お互いに苗の交換などの付き合いをしています。また我が家の畑は花ばかりで野菜類は全くない。それを知っている方からは旬の野菜がよく届く。菊が野菜に化けてくるよ  
うだ。  
こうしたことを繰り返しながら、これから何年菊作りを続けることが出来るだろうかと思う。私か妻のどちらかができなくなったらもう菊作りはできない。やはり我が家の菊作りは、衝突を繰り返しても妻と私の共同作業！

今年は11月26日(日)に **報恩講法要** が勤修されます。

このたびのこのご縁は 初事と思うべし  
このたびのこのご縁は 我一人の為と思うべし  
このたびのこのご縁は 今生最後と思うべし

お聴聞の心得です。ご講師がどんなご法話を取り次いで下さるか心待たれる今日このごろ。大切なご縁です。このご縁を逃すことなく共に味わわせていただきましょう。ご家族でぜひお参り下さい。



# 臥龍松保存のための寄付をお願いします

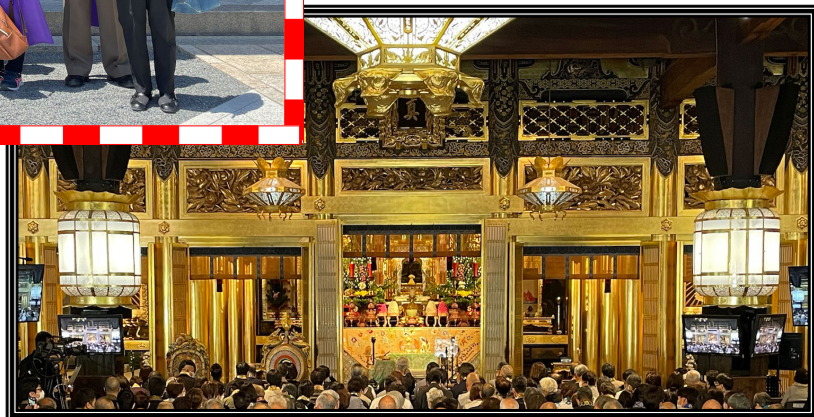
臥龍松を維持管理するには  
たくさんのお金がかかります。  
矢掛町の重要文化財の保存に  
ぜひともご協力下さい。

一口1,000円から受付けています。  
1,000円ご寄付の方には臥龍松のポストカード  
をプレゼント。お寺にご連絡下さい。



親鸞聖人御誕生850年  
立教開宗800年慶讃法要  
本山参拜

令和5年5月9日（火）



# 永代経法要

令和5年4月23日(日)



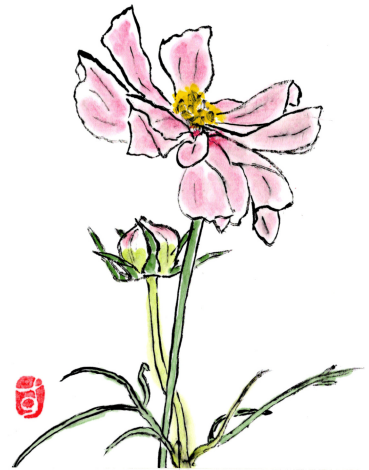
## 《墓地に関するお願い》

- お墓にお参りに来られた際は、門前の駐車場に車を止め、本堂横の扉より出入りしてください。西側のごみステーション横にも扉を設置していますが、本来、車を駐車することができない場所ですので、安全のため、締め切りにしてあります。
- お墓の掃除で出たごみは、持ち帰るか、バケツ・ひしゃく置き場横に設置しているごみ箱に捨ててください。その際、燃えるごみとプラスチックごみを分けて入れてください。燃えないごみはお持ち帰りください。

以上、お手数をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 専教寺からのお知らせ

専教寺の臥龍松の紹介映像を  
倉敷市公式 YouTube  
「高梁川流域デジタルアーカイブ」  
で観ることができます。  
専教寺のホームページにもリンクしています  
ので、ぜひご覧ください。



## 報 恩 講

11月26日(日)正午～ (受付:午前11時30分～)

講師:浄土真宗本願寺派 大分県速見郡 正善寺 藤井 邦磨 師

## 除 夜 会

12月31日(日)午後11時45分～

大みそかの夜、1年の行事のしめくりとしておつとめし、除夜の鐘をつきます。

## 元 旦 会

令和6(2024)年1月1日(月)

午前10時～